

思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し（4） ～大学生の学びに対する見方とその受講による変容Ⅰ～

鹿 嵐 達哉
(広島国際大学心理科学部教職教室)

【要旨】青年期における思春期のとらえ直しに関する研究の一環として、大学生が子ども時代の学びについてどのような体験をしたか、学びに関する授業を受講することにより見方がどのように変化したかを、受講後の感想の分析から明らかにした。学びの意味は、「軸Ⅰ：学びそれ自体が目的～別の目的のための手段として学び」としてA 楽しみ、B 興味—J 自己成長、K 教養—C 理解・知識、D・考える力、I 幅広い考え—E 判断力、F 問題解決—H 将来の準備—G 有用性・役立つ、「軸Ⅱ：私のための学びと社会のための学び」としてJ 自己成長—K 教養—L 社会性・コミュニケーション、「軸Ⅲ：これまでの学び、今の学び、これから学び」として過去—現在—未来という時間軸に整理された。

「学力低下」は基礎的学力の低下、学習時間の減少、教育格差の広がり（苅谷・志水・清水・諸田、2002）のみならず、「学びからの逃走」（佐藤、2000）と言われる学習状況・環境の崩壊（学級崩壊）、学力の偏り、教養の解体、考える力の低下、教科嫌いなどの問題である。教科嫌いには知識の低下に加え、学ぶことの意味や喜び、生き方との関連性、学問・科学の重要性に対する低い評価が含まれている。辰野（2009）は学習意欲の起こらない原因として、A 学習内容に興味が持てない、B 学ぶ目的がわからない、C 好奇心がもてない、D やろうとする気（達成動機）がない、E 失敗するのが怖い（失敗回避傾向）、F テストが怖い（テスト不安）、G 学習の結果がわからない、H 効果的な賞が少ない、I 叱られるのがいや、J 競争がいや、K 言われないとやらない（自己動機づけが低）、L クラス・教室に問題があるなどをあげている。

三浦（1996）は従来の学業不振児は、①学年相当の学力がない、②成績が相対的に下位、③知的能力に比べ学力水準が低いと定義されるのに対し、新しい学習不適応児は、①勉強が嫌い、②結果重視、③劣等感・不適応感、④学校・教師への不信という特徴を有するとしている。勉強が嫌いにもかかわらず結果（成績）を重視し、それが学力の問題のみならず自己の劣等感や学校への不適応感を引き起こし、ひいては学校や教師に対する不信感につながることがうかがわれる。学習不適応は思春期における問題行動の重要な背景をなす。

一方、溝上（2010）によると1990年代後半以降、大学生の学生生活が勉学志向へと変化しているが、「勉学第一」と回答した学生イコール勉強熱心では必ずしもない。子ども時代の「学びからの逃走」「新しい学習不適応」状態から、勉学を重視しながら勉強熱心ではない大学生への発達過程や「勉学第一」とする大学生から見た子ども時代の学びのとらえ直しを明らかにする必要がある。

学力低下は国際的学力検査や継時の比較などの数量的データ、研究者や批評家等による「上からの分析」により問題視されてきたが、当事者である子どもからの視点で語られることは少なかった。本研究では子どもの学びに関する体験と大学生によるとらえ直しからスタートし、「下からの積み重

ね」を目指す。同じような問題意識から鹿嶋（2010）はこれまで大学における教職課程の講義を大人の教師（元青年）と青年（次の大人）の世代間循環としてとらえ、大学生の思春期におけるいじめ（鹿嶋、2011）、不登校（鹿嶋、2014）、教師との関係（鹿嶋、2015）のとらえ直しの様相を明らかにしてきた。

本研究では、子ども時代の学びの体験を取り上げ、大学における教職課程受講学生を対象に学びをテーマとした授業を行い、その後に学生が書いた感想について分析を行った。それにより子ども時代の学びの体験を明らかにするとともに、青年期における学びのとらえ直しの様相を検討することを目的とした。

方 法

調査対象者：国立（現独立行政法人）Z大学の自然科学系学部（複数）において2003年～2010年度に担当した教職課程における青年心理学系の講義の受講生を対象とした（表1）。

表1 調査対象者の年度別履修者数と感想数

開講年度	03	04	05	06	07	08	09	10	計
受講者数	108	108	107	105	123	88	88	96	823
感想数	65	19	25	17	13	11	21	6	177

データ：「学び」をテーマにした授業の終了時に学生が記述した感想を、次回の授業で配布するために教員がまとめたものを分析の対象とした。

結 果

学生の記述を次のように分類した。なお、下表の〈3〉は表1の2003年度を示す。

<A 楽しみ>

学ぶこと【1～5】、わかること【6】、知ること【7～9】、問い合わせ【10～12】、それらを自分や自分の体験と結びつけること【13～15】は楽しく、おもしろいと評価された。

<B 興味>

学ぶ意味として、知的好奇心【16～17】、自然や外の世界に対する興味【18～20】、数学に対する興味【21・22】もあげられた。何か他のものと関連づけずに学びそれ自体を目的としていたものもあった。

<A 楽しみ>

- 【1】学ぶことは人生の楽しみ。⑧
- 【2】学ぶことが楽しいと感じることがある。⑨
- 【3】学ぶことのおもしろさや楽しさ。⑥
- 【4】自分の知りたいことを学べる授業は楽しいが、知りたくないことを学ぶ授業は苦痛でしかまじ。⑥
- 【5】教職の授業で学ぶ楽しさを感じた。自分が少し大きくなれた気になれるし、自信がもてる。④
- 【6】日常生活いろいろなことがめかってくると楽しい。⑤
- 【7】今は何かを知ることが喜びだが、テストでいい点を取るために勉強では楽しみは薄れていた。しかし、学校教育が

なければ学ぶ喜びはわからなかつたと思う。③

【8】得られた知で絶妙に喜ぶことができると思う。⑦

【9】本を読んで感動することとあまり変わらない。⑦

【10】解けるための悩みや解けたときの喜びなど、感性を豊かにするため。⑥

【11】数学のおもしろさ。問題が難しきほど、答えに近づくと嬉しい。⑥

【12】数学は答えが1つで、自分で考えて答えを導けた喜びは勉強を楽しくさせてくれる。⑤

【13】机上で生命科学を学び、自然を感じる体験（田んぼや海で生き物の採集、イモを育てて食べる）をすると感動が大きい。生きていることはおかめかすごいことだと思ふ。知らされた。⑦

【14】歴史の緯記ものが苦手だったが、いろいろな事件・人物のおかげで今の日本があると思うと少しおもしろい。⑤

【15】例えば、短歌を知り、さらに古典を読みたいと思ふ、それが趣味になるかもしれない。③

<B 興味>

【16】大学で勉強している原動力の大半は純的好奇心のような気がする。⑨

【17】実験でびっくりしたり、分かったりすることが好きだった。⑧

【18】自然の不思議さ、生命に対する興味、自分が生きていることに対する感謝を学べる。⑦

【19】外の世界に興味を持つことで世界が広がる。⑦

【20】学ぶことで興味を持つことができるならば、それだけで学んだ価値はある。④

【21】数学に興味があるから勉強してきた。でも、学んだことがムダだとは思わない。③

【22】数学を直接実生活で役立てようとは思わない。自分の楽しみだけのために勉強できたらと思う。③

<C 理解・知識>

学ぶことにより、理解力【23】、自己理解【24】、周囲の事象の理解【25・26】、事象のしくみや法則・原理【27～29】、知識【30～31】が身につく。外界と内界の情報 交換である学び【34】から、必要で正しい知識【31】と事象・現象の背後にある【27・29・32】法則や原理【27～29】を知り、世界観を変え【30】自然界を表現することばを獲得し【35】、平和に生活できる【26】。現実を知ることはショッキングでもあるが、一つの成長である【33】。

<D 考える力>

学ぶことにより、思考力【36・37】、論理的思考【36・38・39】、新しい考え方【40】、多様な考え方【41・42】、自分で考えること【43・44】、学ぶ方法や習慣【45～47】を得た。それにはイメージ【48】が必要で、それにより考える幅を広げる道具【37】、新しい発想【40】、今までみえなかつた素敵のこと【42】、自分なりの理解【43】、謎を解き明かす準備【49】を得た。その方法として教育【44】や勉強（学校）【50】が位置づけられている。

<E 判断力>

学ぶのは判断・決断【51】、正しい判断【52】、自分で判断【53～55】するためであり、そうしなければ独裁者のわなにはまつたり【56】デマや似非科学、胡散臭い科学にだまされたりする【57】おそれがある。

<F 問題解決>

学ぶことにより疑問を解決し答えを見いだすことができる【59～61】。そのためには「問題を考えやすい形にしたり（=想像する）」【62】、さまざまな面から考えたり【63】する必要がある。そのことにより「日常の疑問を自分で解決できたらおもしろい」と感じ【64】、「解決するきっかけ手段を得」られ【65】、一人で対応する力【66】と「疑問から仮説—実験—結果—を経て答えを導く」手続き【67】を身につけられる。社会の問題とその解決を生物の力・特性と関連づけるものもの【68】

もいた。

<C理解・知識>

- [23] 理解力、想像力、表現力を養う。⑨
- [24] 自分を理解するため。⑧
- [25] 身の周りのできごとや社会的事柄を理解する。③
- [26] 周囲の事象を理解するからこそ、平和に生活できている。③
- [27] 理科では今の生活のしくみを知ることができる。冷蔵庫やテレビも原理をたどると理科の実験のようになる。⑤
- [28] 物理学は日常的なできごとを原理的に見る力を身につけることができる学問だ。⑤
- [29] 自由落下のような何でもない現象にも法則があることを知る。⑤
- [30] 知識が増えると見える世界が変わる。⑨
- [31] さまざまな情報の中から、必要なもの、正しいものを選び、活用するための知識を身につける。⑥
- [32] できごとの真実を知るため。真実は表面からは見えず、ねじまがったり、色を変えたりして見える。⑥
- [33] 子どもは現実を知るとショッキングなこともある。それを受け入れられるのが一つの成長であろう。⑦
- [34] 外界と内界との情報交換。⑥
- [35] 数学は自然界を表現することはばだ。ことばを学ばなければ、自然界を表現することはできない。⑧

<D考える力>

- [36] 数学を学ぶことにより、一般的な思考力や論理的思考は成長する。④
- [37] 自分でのごとを判断したり、考えたりする力をつける。考える幅を広げるための道具を多く持つ。④
- [38] 高等数学を学ぶ意味は「もしAならばB」や「Aが→のときBはどうなるか」などの思考を身につけることにあら。⑤
- [39] 数学を勉強し、論理的に考えるようになり、「何となく考える」ことができないし、許せなくなってきた。③
- [40] 微積分は生活には役立たないかもしれないが、そこから新しい考え方や発想がひらめくかもしれない。⑥
- [41] 数学の答えは一つかもしれないが、そこに到るまでの道のりはたくさんあると思う。④
- [42] 知識が増えといろいろな考え方ができるようになる。すると今までみえたかったいろいろな素敵なことに気づくようになる。⑨
- [43] 小学生の頃、分数をひっくり返したり、小数点の位置がずれたりする理由を自分なりに考えた。先生が教えるだけよりも自分のなかで意味を理解できたと思う。(10)
- [44] 考えて行動することがあたり前だと思っていたが、考えることができるために教育が必要である。⑤
- [45] 学ぶ方法を知る。③
- [46] 学ぶことは「考えること」を習慣づけることだと思う。④
- [47] ものごとを考えることが好きになった。③
- [48] 問題を解くにはイメージすることが重要だと思う。⑦
- [49] いろいろな謎を解き明かす準備をしている。謎を解明することは夢である。⑤
- [50] 現代社会では勉強以外でも自分で考えることが少なくなっているのではないか。(10)

<E判断力>

- [51] 直接役立つというより、ものごとの判断や決断に影響する。③
- [52] 正しい判断をするため。⑧
- [53] グループで話し合うことにより自分で判断できるようになる。⑦
- [54] 自分の意志を持つために、判断するものさしが必要である。そのものさしの要素の一つが教養である。④
- [55] 身近な新技術や製品、科学的な問題（原子力発電など）に個人で判断ができるようになる。⑤
- [56] 国民が自分で判断する能力を失ったら、独裁者のわがままはまる。自分で判断するために教育は大切だ。⑤
- [57] デマや偽科学にひつかからぬため。⑤
- [58] マスメディアによる胡散臭い科学の知識や効果に疑いの目を持ち、だまされないため。⑦

<F問題解決>

- [59] 「なぜ」「どうして」という疑問を自ら考えて答えを出せるようになるため。⑨
- [60] 自分で疑問を見つけて、周囲の手助けを得て、解決し、新たな知識・技能を習得すること。③
- [61] 自分の問題を解決するため。⑧

- 【62】問題を解くためには、その問題を自分の頭のなかで考えやすい形にすることがある。これは「想像する」という作業で、「自分がこの行為をしたらどうなるか？」を考えることにつながる。（4）
- 【63】困難に出くわしたとき、さまざまな面から考え、乗り越えていくため。（9）
- 【64】「日常で疑問に思っていることを自分で解決できたらおもしろい」と感じられるようになるため。（3）
- 【65】何かを解決するキッカケ・手段を得るために学ぶ。（3）
- 【66】一人で自立するため。問題に直面したときに、それに対応し、解決しなければならない。一人で対応するには考える力が必要だ。（3）
- 【67】理科では、身近な現象・体験で疑問に感じたことから、仮説を立て、実験し、結果から答えを導く、問題解決能力を身につけることができる。（5）
- 【68】生物を学んでいる。今社会が抱えている問題のほとんどは人工的に開発された副産物で、これを解決する手助けができるのは生物のもつ能力だと考えた。生物の能力ばかりしねりなく、未知であり、危険な部分もあるが、それを大事にしたいと思う。（5）

<G 有用性／役立つ>

学びはよりよい生活を営むため【69】、シミの理解【70】、曲を楽譜におこす【71】ことなどのように実用的に役立つ。また、概念的にものごとをとらえることにより役立つ【72】。さらに、ある程度・少し役立つ【73・74・77】、将来役立つ【75～77】とされた一方で、有用性に疑問を呈するもの【78】もあった。太宰治のことばを引用し【77】、「どう役立っているか、これから役立つかわからないが、学んできたからこそ今の自分がある」と述べたものもいた。

<H 将来の準備、選択肢・可能性の拡がり>

学ぶことは行動を延期することや【79】、以前の体験やさまざまなパターンを思い浮かべること【80】により、選択肢を増やし【81～83】、自分に不足しているものを補う【84】。学ぶことにより目標をみつけ【85・86】、達成させる【86・87】。他には危険予測【88】、つぶし【89】、（教員採用）試験合格【91】をあげたものもいた。

<G 有用性／役立つ>

- 【69】人間がよりよい生活を営むために必要。飛行機を作るためにも、植物を栽培するためにも知識が必要。（5）
- 【70】何かと化学と結びつけて考える。白衣のシミは化学的に安定しているから洗濯してもムダとあきらめる、とか。（3）
- 【71】好きな曲を楽譜におこすことができた。（3）
- 【72】概念的このごとをとらえることは、人間関係や仕事に役立っている。（3）
- 【73】先生方が豈ばほほどには役立っていないが、ある程度は役立っている。それでかまわない。（3）
- 【74】100学年ば1くらいは役に立つ可能性がある。（9）
- 【75】いつかきっとどこかで役立つと思う。（3）
- 【76】以前に学んだことがめぐらになって理解で役立つことがある。そのときにやっていてよかったですという充実感が得られる。（3）
- 【77】太宰治の「正義と微笑」に「学んだことを何かに役に立てようなんて考えなくて良い。もっと広い心を持っていろいろなことを学べ。学ぶという訓練の底に、いつの間にか形金が残っている。」と書かれていた。今までたくさんのことを見たが、どう役立っているのか、これからも役立つかわからぬ。でも、その学んできたことがあったからこそ、今の自分があると思う。（5）
- 【78】漢文だけは役立つとは思えない。（3）

<H 将来の準備、選択肢・可能性の拡がり>

- 【79】昔は行動を先に延ばすことができなかったが、最近は少しずつできるようになつた。（5）
- 【80】行動する前に、立ち止まって、以前の体験やさまざまなパターンを思い浮かべる。でも、考えすぎて、1つを選べず、行動に起こせない。ぐずぐずと悩んで時間がかかる。（5）
- 【81】未来の選択肢を増やす。（5）

- [82] 若い頃からたくさんのこと経験して、勉強して、選択肢を増やすことが勉強する意味だと思う。④
- [83] 実家は農業だが、学ぶ場がなければ農業しか知らない人間になっていた。知らない方が幸せだったかもしれないが、生き方が制限されていたであろう。自分の生き方を選択できるという意味で価値がある。③
- [84] 将来役立つ特技や才能がないと感じたので、それを補うため。③
- [85] 自分のしたいことや目標を見つける。③
- [86] 目標を見つけた後は、目標を達成させることができることが学ぶ意味。③
- [87] 自分のやりたいことをする準備。④
- [88] ある本が孫のこれから生きる道を決めた。③
- [89] 物理学を学ぶ意味は危険予測。⑦
- [90] 実際のところ数学を学んでいる人は論理的思考ができるためつぶしがきくらしい。③
- [91] 教職科目を勉強するのに実験にかかるため。③

<I 幅広い考え方>

学ぶことにより世界【92・94】や視野【93・94】が広がり、広い分野の知識【95】や考える幅を広げるための道具【96】を得る。また、幅広く【97】、多面的に【98】考えることができ、他人の意見を受け入れ【99・100】、尊重でき【101】、客観的にみられる【102】ようになる。

<J 自己成長>

学ぶことは生きること【103・104】(それも自分の力で【105】)、変化すること【106・107】である。学ぶことによりよく【108】、分厚く味わい深く【109】生きることができ、自分を高め【110】、誇れる人間に【111】成長し【112・113】、自分の価値を高める【114】。また、学ぶことで人生はおもしろくする【115】のみならず、自分を創っていく【116～118】。さらに、失敗の経験【119】や忍耐力育成【120～121】のためでもある。他には自分のため【122】、個を持つため【123】とともに幸せになるため【124～125】があげられた。

<K 教養>

学ぶことを教養と結びつけたものもいた【126】。教養は社会生活に必要であり【127】、自分で身につける【128・129】ことにより、気づかぬうちに自分に影響するものである【130・131】。教養はいたるところにあり【132】、何かに役立つものではない【133】、そのものが目的となるものである【134】。学校での学びはそれ自体として自分のためにも必要である。【135・136】

<I 幅広い考え方>

- [92] 世界が広がる。④
- [93] 視野が広がる。④
- [94] 自分が見える世界・視野が広くなる。逆に、特定のものごとにとらわれてしまう気もするが…。⑧
- [95] 深くなくてもいいから広い分野の知識を持ちたい。③
- [96] 考える幅を広げるための道具を多く持つ。④
- [97] 「学ぶ」とは幅広く考えたり、行動したり、意見できたりするためにすると思う。⑧
- [98] 見方のバリエーションを増やす。多面的に考える。⑥
- [99] 自分の考えに固執しないでいられる。他人の考えを受け入れられるようになる。④
- [100] 自分とは違う考え方を取り入れるため。③
- [101] 人の言うこともわかりやすいし、人にものを教えやすい。いろいろな考えが尊重できると思う。⑧
- [102] 自分の視点からだけではなく、客観的に見るのは重要だと思う。③

<J 自己成長>

- [103] 学ぶことの意味と生きることの意味とは似ている気がする。⑥
- [104] 「知らない」と言いたくない。何も学ぶことがないのは人生ではない。⑨

- 【105】自分の力で生きるため。⑥
- 【106】自分からだ全体で見聞きし、感じ、自分で何らかの変化すること。⑧
- 【107】国際協力をしていた人に「学ぶことで自分を変えることができる」と言われた。⑨
- 【108】よりよく生きるために。⑤
- 【109】深みのある人間になることができる。薄っぺらい人生よりも、分厚く味わい深い人生の方がいい。③
- 【110】自分自身を高めて、何かを為すため。⑤
- 【111】自分で自分が尊敬される人間になりたい。⑤
- 【112】自分を成長させるために。③
- 【113】自分を何らかの形で成長させていくため。⑨
- 【114】自分がよりよくなるため、自分の価値を高めるため。⑨
- 【115】仕事をして食べていくには役立たないが、人生をおもしろくするには役立った。③
- 【116】ものごとを学ぶ上でさまざまな感情を持ち、適応して、自分を創っていく。③
- 【117】高校の頃は受験のための勉強だったが、大学で自分のために学ぶことができるようになってきた。知識の積み重ねが自分自身に反映されていると思う。③
- 【118】小中学校で学んだ基礎は、日常生活でさまざまな発展を自分にもたらしている。③
- 【119】人は失敗する。学校で失敗を経験しておくために学ぶ必要がある。⑨
- 【120】忍耐力育成。「賺いなことをがまんして、どれだけが頭脳れるか」という力を身につける。③
- 【121】退屈でも、つまらなくても、眠くても、その場に居続けることで、社会に必要な忍耐を身につける。③
- 【122】幼児～兒童では生きるため、中高生は知識・親・自分のため、大学生は自分のため。⑨
- 【123】自分という「個」を持つため。⑨
- 【124】小学校の担任が「勉強は皆が幸せになるためにするんだよ。」と言ったのをきいて、とても驚いた。⑤
- 【125】使命感。高校の先生には「世界で大学に行けるのは1%」、曾祖母には「頭の中にある財産は誰にも盗まれない」、祖母には「自分が行きたくても行けなかった」とと言われた。私が頭脳れば、皆が幸せになれると思う。⑨

<K教養>

- 【126】教養は必要で、人格形成そのものだと思う。しかし、教養のない人が人格形成で未熟ということは一概に言えない。③
- 【127】教養とは社会生活をしていく上で、最低限必要な知識である。書物などを通して、いろいろな考え方を知り、相手の言ったことに対して、自分の考えを主張できるようになる。④
- 【128】大学の「教養講義」は役立っていないが、自分で身につけた教養は役立っている。③
- 【129】自分のなかでかみくだいて理解することによって、一見必要なないことがすばらしく思えたり、性格に影響を与えてたりする。④
- 【130】教養を身につけることにより、日常の中で新しい発見をしたり、今まで気づいていなかった自分に出会ったりすることがある。④
- 【131】小さい頃は、どうして学ぶのか、何が大切なのか、まったくわからなかった。この意識していない学びが一番重要だと思う。④
- 【132】勉強は教科だけではない。自然とふれあい、遊び中で、発見したり疑問を持ったりしたことも勉強だと思う。そこで得た疑問に対してもっと具体的に解決を導くために教養を学ぶのではないかと思う。④
- 【133】何から役立つからというのではなく、学びではないのです? ⑤
- 【134】なぜ勉強するのか節目節目で自問してきたが、意味はたくさんあっていい。学ぶことそのものが目的。⑧
- 【135】テレビドラマで「学校の勉強よりも大切なものはたくさんある」という話があるが、学ぶことも十分大切だと思う。⑩
- 【136】学ぶことは自分のためであると小学校の理科で初めて実感した。芋の育て方を学び、自分でも大好物の芋を育ててみた。⑩

<L社会性・コミュニケーション>

学びの意味は社会性やコミュニケーションにまで拡がる。学びは教師との出会い【137】、他人とのコミュニケーション【138～140】、意見や考えの共有【141・142】、他者とのつながり【143～146】に関連する。さらに、人の説得【147】や自他の違い【148・149】、感情や感性【150～152】とも

つながる。

<M その他の意味>

その他には、一生懸命すること【153】、積極的に学習する姿勢【154】、継続【155】、生きている実感【156】、毎日の生活【157】などの生きる姿勢、心に残る【158】、内側に隠れているものを見る【159】などの内面の成長【160】、ことばやピュアな形での表現【161】などの表現、予期【162・163】などがあった。また、人に認められるため【164】、大切な人を守るため【165】もあった。

<N 探求・悩み>

学びの意味の探求や悩みも記されていた。子どもの頃の疑問【166】、考える機会がなかったこと【167】、先生との出会いによる解決【168】、よく考える【169】、成績に対する疑問【170】、今でも悩んでいる【171】、動機がさがっていること【172】、勉強ばかりしてきたむなしさ【173】、現実とは異なる数学的現実の受容【174】、一生考えていかなければならない【175】、将来わかるかもしれない【176】、考えてこなかった【177】などがあった。

<L 社会性・コミュニケーション>

- 【137】いろいろな考えを持つ教師と会うのはおもしろい。(3)
- 【138】いろいろな人とコミュニケーションが取れるようになりたい。(5)
- 【139】学ぶことで自分を表現でき、他人とコミュニケーションをとることができ。(8)
- 【140】「言葉は言の葉であり、自分の思いを乗せて人に思いを伝えるもの」と教えられたことがある。(3)
- 【141】自分の思っていることを誰かと共感したり、異議を唱えたりして、考えを広げるため。(9)
- 【142】頭でわかっていても、ことばで表し、伝えられるのが、さみしい。(3)
- 【143】他人のことを考え、世の中に入り込むとともに手をとっていくため。(6)
- 【144】教養は人と人とのつながりを深める上で重要だ。「知ることは愛することに通じる」が恩師の口癖だった。(3)
- 【145】相手が自分と同じぐらいの教養を持っていればすぐに打ち解けることができる。逆に、違いがあるとシラケる。(3)
- 【146】大学に入ってから読書の大切さを実感した。話のうまい人、教養のある人は本を読んでいる。友人と議論するとき、思っていることがうまく相手に伝わらなくてどかしい思いをした。(3)
- 【147】理論立てた説明は人を納得させる。(7)
- 【148】自分の意見を持ち、他人の意見を聞くことで、自他の意見に違いがあることを知る。(8)
- 【149】他者(先生を含む)の本音をきいて、自分を学び、他者を学ぶ。(8)
- 【150】学ぶことにより得られるいろいろな感情。(8)
- 【151】自分の感情をそのままの形で表すことは躊躇しているが、その感情を表現するスタイルやツールがあればよいのかと思う。(8)
- 【152】(数学)「美しい」「きれいだ」と感じるものを広げてほしい。(7)

<M その他の意味>

- 【153】勉強でもなくてよいが、何を一生懸命やることは、目に見えない彌悠書だ。(6)
- 【154】積極的に学習する姿勢。(6)
- 【155】小学校の先生や親から言われ影響を受けたことばがある。それは「縦横は力なり。(3)」
- 【156】数学や社会は知識を深めるため、国語は自分の気持ちを明確に表すため、音楽は感受性を養うため、など、生きていることを実感させるためであるように感じる。(3)
- 【157】学校で学ぶことだけではなく、毎日の生活で行なうこと一つが学ぶこと。(3)
- 【158】学ぶことの一つの意味に「ずっと心に残る」ことがある。(6)
- 【159】人間はさまざまな可能性を秘めている。内側に隠れているものは、自分で働きかけなければ見えてこない。(3)
- 【160】英語を学ぶことによって日本語がよくわかるようになった。ことば 자체が好きになり、文章を読むことが苦ではなくなった。(3)
- 【161】学ぶことはものごとをピュアな形で表すための準備。(3)

【162】知らないことは危ないことだ。予期せぬことに対処するために、無知は罪となりうる／恐ろしい。(6)

【163】自分の行動の後のストーリーを思い浮かべることができる。(7)

【164】人に認められたい、憧れの人のようにになりたい、人に認められたいという感情が強い。(5)

【165】大切な人を守るため。(8)

<N探究／悩み>

【166】小学校高学年のとき、「今日の授業は何の役に立つか」と質問した友だちがいた。(10)

【167】「何で学ぶのか」を考えることなく教育を受けてきたから、答えがわからぬから見つからないかもしれない。(9)

【168】小中のとき学ぶ意味がわからず方針を伸び悩んだ。高校である先生との出会いでその難題を解決できた。(10)

【169】学校の授業が社会で何になるのかよく考えることがある。たまにこの矛盾に苦しむ。(9)

【170】成績のよさ、テストの点って何なのかと感じる(9)。

【171】今でも悩んでいる問題である。(8)

【172】大学に入ってから動機がないためか、あまり勉強しようという気が起きない。ゴミばかりたまる。(7)

【173】紙の上の勉強ばかりしてきて、釣りや野菜栽培などができない自分はつまらない人間だと思ってしまう。(6)

【174】現実と数学の間には小さな差異がある。いつからかは数学的事実をそのまま受け入れるようになつた。(9)

【175】答えは出なかったが、私たちは一生をかけて、いろいろなことについて考えていかなければならないと感じた。(3)

【176】将来 わかるかもしれない。(3)

【177】今まで「学ぶ」ことについて考えてこなかった。最近は自ら何かを得ようという気持ちが高まってきた。(3)

考 察

学びの意味 A～L は次の 3 軸に沿って整理することができる。

軸 I : 学びそれ自体が目的～別の目的のための手段として学び

学びの意味はそれ自体を目的～別の目的のための手段として整理すると、A 楽しみ、B 興味—J 自己成長、K 教養—C 理解・知識、D・考える力、I 幅広い考え方—E 判断力、F 問題解決—H 将来の準備—G 有用性・役立つと並べることができる。学びはそれ自体が A 楽しみや B 興味であり、J 自己成長や K 教養など自己目的化したものと関連する一方で、G 何かに役立つものや H 将来の準備でもある。その中間に E 判断力や F 問題解決など有用性側に位置づけられるものと、C 理解・知識、D・考える力、I 幅広い考え方など自己目的的なものが含まれる。この軸が発達的にどのように形成され、学びの目的・意味にとまどう子どもたちにどのように納得されるかは今後の課題である。

これに関連しうる軸として専門とする学問領域自体に意味を見出すもの【11, 12, 21, 22, 67, 68】と日常生活に結びつけるもの【6, 13, -15, 26-30, 56, 57, 64, 69, 70】という軸が考えられる。

軸 II : 私のための学びと社会のための学び

学びの意味は自己のためのみならず、他人とのコミュニケーション【138～140】、意見や考えの共有【141・142】、他者とのつながり【143～146】に関連する。さらに、人の説得【147】や自他の違い【148・149】、感情や感性【150～152】など、社会とのつながりや他者とのコミュニケーション・共存、平和な世界作りとも関連づけられた。これは J 自己成長—K 教養—L 社会性・コミュニケーションと並べることができる。K 教養は人格形成【126】、性格への影響【129】、自分との出会い【130】、自分のため【136】であるとともに、社会生活【127】に必要とされたため中間に位置づけた。

学びにはそれ自体～方法としての意味の拡がりがあり、大学生はその幅を認識していたが、その形成過程や子どもへの教え方・伝え方は今後の課題である。ただし、「ただ学ぶ」のではなく、学びの意味を問い合わせ続けることはこれからの中においても求められる。

大学生は学びを他者・社会・世界と関連づけていた。学びを個人の能力の伸長としてだけではなく、社会への参加としてみなす必要（佐伯,1975）がある。さらに、「学ぶことの意味と生きることの意味とは似ている気がする。」【103】、「何も学ぶことがないのは人生ではない。」【104】というように生きることそのものとして学びをとらえている視点は、準備・能力伸長ではない生の実践としての学びという視点からも、また生涯学習の視点からも興味深い。

軸III：これまでの学び、今の学び、これからの学び

学びの意味は過去～現在～未来という時間軸にそって整理することもできる。まず、学びの意味は教育（それも学校教育を中心とした）中で形成される【7,43,44,50】。また、他のことば【107,124,125,140,166】が残っている場合もみられた。さらに、学ぶ意味は大学で学ぶ現在の体験【5,117】や将来の教える体験【未掲載】と関連づけられた。N 探究・悩みも過去【166-168】、現在【169-174,177】、将来【175,176】の記述からなる。子どものときの体験と探求（悩み）が青年期でどのようにとらえ直され、理解されるのかも今後の検討課題である。

今後は、A) 学業達成水準の異なる大学生による学びの意味に関するとらえ方ととらえ直しの様相、B) 教職課程の学生が教える立場としてどのように学びの意味をとらえるか、C) それを子どもたちにどのように伝えようとしているのかを検討する予定である。

引用文献

- 苅谷剛彦・志水宏吉・清水睦美・諸田裕子（2002）「学力低下」の実態 岩波ブックレット 578
鹿鳴達哉（2010）講義「青年心理学」における大人～青年の世代間交流～講義内容・教員の語り、
学生の感想とフィードバック、学生～教員の関係性の関連～ 広島国際大学教育論叢 創刊号
13-22.
- 鹿鳴達哉（2011）思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し～教職志望学生の受講前後のいじ
めに対する見方の変容～ 広島国際大学教育論叢 第2号 3-13.
- 鹿鳴達哉（2014）思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し（2）～大学生の不登校に対する
見方の受講による変容～広島国際大学教育論叢 第5号 17-28.
- 鹿鳴達哉（2015）思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し（3）～大学生の教師に対する見
方とその受講による変容～広島国際大学教育論叢 第6号 17-28.
- 三浦香苗（1996）勉強ができない子 岩波書店
- 溝上慎一（2010）現代青年期の心理学 有斐閣選書
- 佐伯胖（1975）「学び」の構造 東洋館出版社
- 佐藤学（2000）「学び」から逃走する子どもたち 岩波ブックレット 524
- 辰野千壽（2009）科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法 図書文化社